

科目名	2 年次演習 B						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	2 年次	単位数	2 単位
教員名	來住南 桃						

授業概要／Course outline

本演習では、法が現代社会において生起している新たな社会的課題とどのように関わりうるのかを探究する。たとえば、AIやデジタル技術などテクノロジーの発展によって生じるプライバシーやデータ保護の問題、社会規範の変化やフェミニスト・ジェンダー理論の発展を背景として可視化されたジェンダーや多様性の問題、メディア環境の変化に伴う表現や差別の問題など、現代社会における「新しい法の対象（新領域法学）」を扱う。

秋学期は、春学期に学んだ内容を踏まえ、個人またはグループでテーマを設定し、自主的に調査・発表を行う。発表後は全体で討論を行い、現代の法的課題に対する理解を深め、自分なりの見解を形成することを目指す。

本演習は演習科目であり、講義の大半は担当者による報告と教員を含む参加者による議論である。活発で意義のある時間とするため、受講生には報告の準備や議論などに積極的に取り組むことが求められる。演習全体としては、「現代社会が直面する問題に、法と他分野の知見を組み合わせるアプローチする力」を養うことを目的とする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

本科目では、担当者（複数または単数）が各回のテーマについて報告を行う。

また、その報告に基づき教員を含む参加者全員でディスカッションを行う。

授業内容・授業計画／Course description・plan

本演習では、第1回到秋学期のガイダンスと各自の研究テーマの確認を行う。第2回～第3回では、研究の進め方やプレゼンテーションの方法について解説するとともに、各自の研究計画を発表し、教員・参加者からフィードバックを受ける。

第4回～第12回は、個人またはグループによる研究報告を行う。各報告後は全体で討論を行い、報告者は討論を踏まえて研究内容を深化させる。第13回～第14回では、最終報告と学期全体の総括を行う。

【授業計画】

第1回：秋学期ガイダンス＋研究テーマの確認 秋学期の進め方を確認し、春学期末に設定した各自の研究テーマを共有する。

第2回：研究の進め方・プレゼンテーション入門 文献調査、資料収集、論証の組み立て方など研究の進め方について解説する。効果的なプレゼンテーションの基本についても説明する。

第3回：研究計画発表 各自（またはグループ）が研究計画を発表し、教員・参加者からフィードバックを受ける。研究の方向性を確認・調整する。

第4回～第12回：個人・グループ研究報告 各自（またはグループ）が設定したテーマについて報告を行い、教員を含む参加者全員で議論する。報告後は討論を踏まえて研究内容を深化させ、最終報告に向けて準備を進める。取り上げるテーマは各自の関心に基づくが、例として以下のようなものが考えられる。・AIと私たちの生活（身近なAI技術と法的課題）・SNSとプライバシー（若者のSNS利用と個人情報保護）・ジェンダー平等と法（男女平等、LGBTQ+の権利）・ネット上の誹謗中傷と法的対応・著作権とインターネット

第13回：最終報告① 研究成果の最終報告を行う。これまでの報告・討論を踏まえた成果を発表する。

第14回：最終報告②＋秋学期の総括 最終報告の続きを行い、秋学期全体の学修内容を振り返る。今後の学修の発展可能性について議論する。

なお、報告の順番や回数は、受講生の人数やテーマに応じて調整する。そのため、上記の授業計画は確定的なものではない。

★オンデマンド代替：テーマ：中間発表

本演習では、中間発表をオンデマンド授業の代わりに実施する。受講生の進捗状況を確認のうえ、具体的な実施日時・場所は決定し、授業内で周知する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

本演習では、個人またはグループで設定したテーマについて研究・報告を行う。そのために

〔事前学修として〕 報告担当者は、報告にあたって入念な準備をすることが求められる。準備にあたっては、文献調査、資料収集、論証の組み立てなどを計画的に進める必要がある。報告のための資料としてのレジュメや報告

スライドの作成も求められる。研究の進め方については、教員が相談に乗るため、積極的に相談などしてほしい。報告担当者以外の者は、事前に提出されたレジュメ等に目を通し、報告テーマについて自分なりに考え、講義中に積極的に議論に参加することが求められる。

〔事後学修として〕 報告担当者は、討論で得られたフィードバックを踏まえて研究内容を深化させ、最終報告に向けて準備を進めることが求められる。報告担当者以外の者は、各報告の内容について復習し、自身の研究との関連を検討することが求められる。

事前学修と事後学修を合わせて4時間程度となることが見込まれる。特に、自身が報告を担当する回については、事前学修としての報告準備を入念に行うことが求められる。

・第1回：秋学期ガイダンス＋研究テーマの確認 〔事前学修〕 春学期末に設定した研究テーマについて、夏季休暇中の検討内容を整理しておく。〔事後学修〕 他の参加者のテーマも踏まえ、自身の研究計画を具体化する。

・第2回：研究の進め方・プレゼンテーション入門 〔事前学修〕 事前に配布するレジュメ等を読む。自身の研究に必要な調査方法について考えておく。〔事後学修〕 講義の内容を復習し、自身の研究計画に反映させる。

・第3回：研究計画発表 〔事前学修〕 研究計画を作成し、発表の準備を行う。〔事後学修〕 フィードバックを踏まえて研究計画を修正・具体化する。

第4回～第12回：個人・グループ研究報告 〔事前学修〕 （報告担当者）報告テーマについて入念な準備を行う。

（報告担当者以外）報告者が事前に配布するレジュメ等を読み、そのテーマについて自分なりに考えておく。

〔事後学修〕 講義中の報告や議論の内容等を復習し、自身の研究に活かす。

・第13回：最終報告① 〔事前学修〕 最終報告の準備を入念に行う。〔事後学修〕 フィードバックを踏まえて、研究内容を整理する。

・第14回：最終報告②＋秋学期の総括 〔事前学修〕 最終報告の準備を行う。1年間の学修を振り返っておく。

〔事後学修〕 今後の学修の発展可能性について考える。

※事前学修の所要時間の目安は各授業90分、事後学修の所要時間の目安も各授業90分である。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- ①現代社会における法の新たな課題について、自ら研究テーマを設定し、調査・分析を行うことができる。
- ②研究成果を効果的にプレゼンテーションする基本的なスキルを身につける。
- ③討論を通じて自分なりの見解を形成できる。
- ④他者の研究報告に対して質問や意見を述べることができる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・協働性・協調性
- ・倫理性
- ・創造性

専門知識・専門技能

【法学部 法律学科】

- ・法律学・政治学の知識の応用力
- ・法律学・政治学の基礎知識

【法学部 法政策学科】

- ・法律学・政治学・政策学の知識の応用力
- ・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

本演習は演習科目であり、講義の大半は担当者による報告と教員を含む参加者による議論である。活発で意義のある時間とするため、受講生には報告の準備や議論などに積極的に取り組むことが求められる。

春学期の2年次演習Aを履修していることが望ましい。

評価方法／Evaluation

成績は、平常点によって評価する（平常点：100％）。

具体的には報告内容（レジュメ等の内容、準備の程度、質問に対する受け答えの様子など）60％、講義中の態度（質問や議論への参加状況など）40％。

ただし、理由なく3回以上欠席した場合には単位を認めないことがありうる。

教 材／Text and materials

教科書：特に指定しない。教員が指定する文献を適宜示す。

参考資料：適宜必要に応じて示す。

質問や相談の方法／Instructor contact

講義に関する質問や報告についての相談などがある場合は、授業終了後か、初回授業時に伝えるメールアドレスへ連絡すること。

オフィスアワー等については、第1回講義時に知らせる。

その他／Others

本演習は、春学期の２年次演習Ａで学んだ内容を発展させ、各自の研究を深める科目である。春学期・秋学期を通じて継続的に受講することで、「現代社会が直面する問題に、法と他分野の知見を組み合わせアプローチする力」の基礎を養うことができる。３年次演習への接続も視野に入れて学修を進めてほしい。